

The image shows a large red banner with white, jagged-edged text. The main title reads "第18回 国際将棋大会" (18th International Shogi Congress). Below it, the text "日本将棋連盟" (Japan Shogi Federation) is partially visible. In the top right corner of the banner, there is a small black box containing the text "文・五十嵐毅 撮影・寺内康彦". At the bottom right, there is a small inset photograph of a woman with short brown hair, wearing a pink shirt, sitting at a shogi board and looking down thoughtfully.

2007年 日本で一番麻雀が強い者は?



しかし、かつて最高位戦に在籍していた安定感のある打ち手の鈴木優と、細かなアカリで2着をキープする佐々木寿人の前に、萩原はこの半チャンス3着に沈んだ。

4回戦目は全員がボーダーラインを瞬んで打つ。熾烈を極めたのが4卓。大きくマイナスしている足立多聞以外の3人、鈴木・福本・二階堂瑠美は決勝が望めるボージョンなのだ。

3人のうちもっともボーポイントが高いつまり条件が難しいのが福本だったが、鈴木をラスにして自分がトップを取りよう条件をクリアして、トータルボーポイントで鈴木・瑠美を抜き、あとは結果待ちとなつた。

そして出た結果は――4位片山まさゆきとわずか1・1ボーポイント差の5位だったのである。無念!

1位・小山理則、2位・荒正義、3位・児嶋一哉、4位片山まさゆき、この4人が7月から続いた戦いの最後のトップ(同点トップは通過順位優先)を賭けて戦いに挑む!

9・2Pといつのもかなり大きなトツ
ブだ。気合を入れて戦った3回戦だっ
たが、思うように手が入らない。しか
し、南2局に見せてくれた。(ドフ(南))

の中の二つ、船と、アガツムのトップをもつて取った。二回戦は荒正義、児嶋一哉の特大トップがギャラリーの視線を集めめた。ハネマン2発をアガツムのトップ目の荒は、ラスオヤで4千オールをツモるトアカリ止めを宣せず、無表情でサイコロを振った。2着目市之瀬保彦とは3万点以上の差。1回戦3着の荒にとつては稼げるだけ稼ぎたいところのだ。そして26000オール、テンパイ、39900の出アカリと、連チャンし続

20人のうち決勝卓に座るのは4人。しかもも4回戦のスプリントレースだ。やはり結果が大事である。注目の1回戦でトップを取ったのは小山理伸、2階堂瑠美、和泉田希子、福山伸行、佐々木寿人(ハイント順)。もつとも大きなトップを取った小山は読者代表。いかにもフリーリー慣れしている感じで前に前にと出てくるタイプだ。二階堂、和泉、佐々木はプロらしい展開を作つてのトップ。一方、福本は苦しい展開

は、このカン^{伍墓}をノータイ
ムでリーチした。しかし、こ
の2人に割って入ったのが和
泉。

今夏7月より約4ヶ月をかけ、全国で行われた第18回麻雀最強戦もついに大団円を迎えた。3千人を越す参加者から勝ち上がった8名のつわものたち。迎えるは、雀豪の誉れ高い作家、芸能人、それにトップ麻雀プロたち12名。東京・渋谷の会場は朝から熱気に包まれた。文字どおり日本で一番麻雀が強い者を決める闘いが今始まる。

例年ではない猛暑を見舞われた今年の夏、全国を勝ち抜いた猛者たちが東日本、西日本大会を経て8名に絞られ、ついに最終ステージに立った。迎え撃つのはプロ8名、著名人4名の計12名。

誰もが胸に秘める想いは同じだったんだ

本、西日本大会を経て8名に絞られ、ついに最終ステージに立った。迎え撃つのはプロ8名、著名人4名の計12名。

瀬が打つたりーチを追いかけた次の手だ。(ドラ南)



今夏7月より約4ヶ月をかけ、全国で行われた第18回麻雀最強戦もついに大団円を迎えた。3千人を越す参加者から勝ち上がり、てきた8名のつわものたち。迎えるは、雀豪の誉れ高い作家、芸能人、それにトップ麻雀プロたち12名。東京・渋谷の会場は朝から熱気に包まれた。文字どおり日本で一番麻雀が強い者を決める闘いが今始まる。